

49号からリニューアルします

■予告 特集「変わりゆく養殖」(仮)

いまや天然にない付加価値を持ち始めている養殖漁業。天然の魚介類が捕れにくくなっていく昨今、期待が寄せられ、変化の兆しが見られる養殖の可能性について探ります。



水の文化 バックナンバーをホームページで

本誌はホームページにてバックナンバーを提供しています。すべてダウンロードできますので、いろいろな活動にご活用ください。

水の文化 Information

賀川督明さんを偲ぶ

去る9月17日、ミツカン水の文化センターの活動に大きな貢献をいただいた、賀川督明さんがお亡くなりになりました。

機関誌のデザインをはじめ、アドバイザーの先生から「魂のこもった写真」と評される、独自の視点を持ったこだわりの写真を撮っていただきました。

まだまだ逝ってしまうには早過ぎる別れを惜しみ、安らかな眠りにつかれますようお願い申し上げます。

ミツカン水の文化センター一同



編集後記

◆リバーネット21ながめまの山本さんから足下の見えない水の中を歩く映像の話聞いた時、ハツとした。自分も減災意識が麻痺していると思った。取材して減災のための情報は沢山あり、活用するのは自分の意識だということ再認識した。(後)

◆これまで災害についてあまり深く考える機会は無かった。きっと大半の人にとって災害は身近なことではないのだと思う。この号を読んで多くの人に減災の考えに触れて頂き、いつ起こるか分からない災害について一度考えて頂けたらと思った。(垂)

◆自然災害大国・日本では災害の発生は今後も避けては通れません。今号が防災・減災意識の向上に役立てば幸いです。これまで取材の中で多くの方々とお会いすることができました。「水は恵みにもなれば、脅威にもなる」という事も学びました。出会った全ての方に感謝します。(ゆ)

◆自然災害を避けるのは難しい。しかし、自分の小さな知恵や気付きから、大切な命を守る可能性はある。故郷を離れて暮らす自分は、恥ずかしながら今住む土地について不勉強だと実感した。まずは地域に関心を持つことが減災への第一歩だと思う。(原)

◆小学生のころの防災訓練。最低限の知識は身に付いたが、いざというときに思い出せるか自信がない。水防団のように具体的な体験をさせることで体に覚え込ませる活動は、必ず役立つだろうと感じる。災害に対する知識だけでなく、意識が備わることの重要さを思い知った。(力)

◆20年以上の歴史を持つダウン・ザ・テツには地域活性化イベントを超える魅力を感じた。川から開拓が始まったという歴史を振り返る意味を持ち、カヌーで長距離を下れる大自然自体が素晴らしい。アイヌの丸木舟も見てみたかったけれど。(麻)

◆創刊号からかわって来た賀川督明が9月に天に召されました。48号をもって制作から退くことが1年前に決まり、美しいフィニッシュを考えていましたが果たせなかったことが残念です。カメラのファインダー越しに、多様な水の文化を発信させていただき、たくさんさんの学びとネットワークを育ませていただいたことに感謝申し上げます。また、どこかでお目にかかりましょう。(賀)

ミツカン水の文化センター機関誌

水の文化

第48号

ホームページアドレス
<http://www.mizu.gr.jp/>

※ 禁無断転載複製

発行日 2014年(平成26)11月

企画協力 沖大幹 東京大学生産技術研究所教授
古賀邦雄 水・河川・湖沼関係文献研究会
島谷幸宏 九州大学工学研究院教授
陣内秀信 法政大学教授
鳥越皓之 早稲田大学教授
中庭光彦 多摩大学准教授

制作 後藤喜晃 新美敏之 佐伯亜友美 小林夕夏 原田朱野

編集製作 賀川一枝 編集長 小野田麻里 中野公力 賀川督明 撮影・デザイン

発行 ミツカン水の文化センター
〒104-0033 東京都中央区新川1-22-15 茅場町中埜ビル4F
株式会社 Mizkan Holdings
Tel. 03 (3555) 2607 Fax. 03 (3297) 8578

お問い合わせ ミツカン水の文化センター 事務局
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-11-3 中銀NM・5F
Tel. 03 (6264) 9471 Fax. 03 (6685) 7596